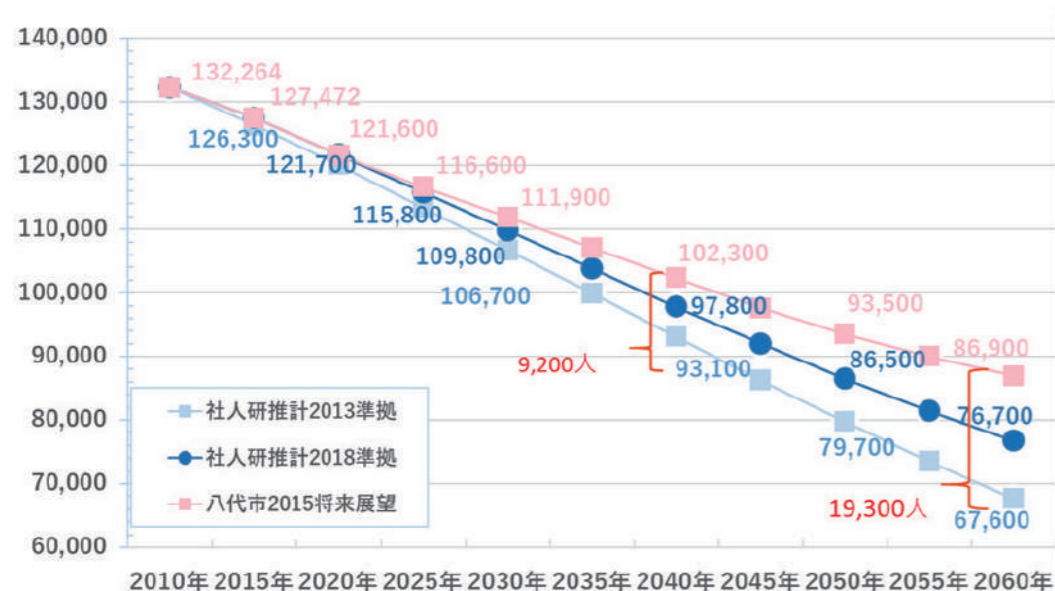


八代市人口ビジョンの概要

1. 人口ビジョンの改訂について

- ・ 前回人口ビジョンで、八代市の将来目指すべき人口は2040年で社人研推計2013の93,100人を9,200人上回る102,300人を目標としていた。
- ・ 社人研推計2018において、本市の総人口は2040年に97,800人と推計され、人口減少の速度がいくらか緩和された結果となった。
- ・ 人口減少抑制の更なる推進を図るため人口ビジョンの改訂を行うものとした。



2. 人口の現状分析

● 人口の構造（平成27年国勢調査人口）（本編P2参照）

- ・ 総人口 : 127,472人
- ・ 年少人口 : 15,775人 (12.38%)
- ・ 生産年齢人口 : 70,779人 (55.53%)
- ・ 老年人口 : 40,424人 (31.71%)

< 昭和55年との比較 >

- ・ 総人口 : 150,389人 (22,917人減少)
- ・ 年少人口 : 33,919人 (18,144人減少)
- ・ 生産年齢人口 : 100,275人 (29,496人減少)
- ・ 老年人口 : 16,183人 (24,241人増加)

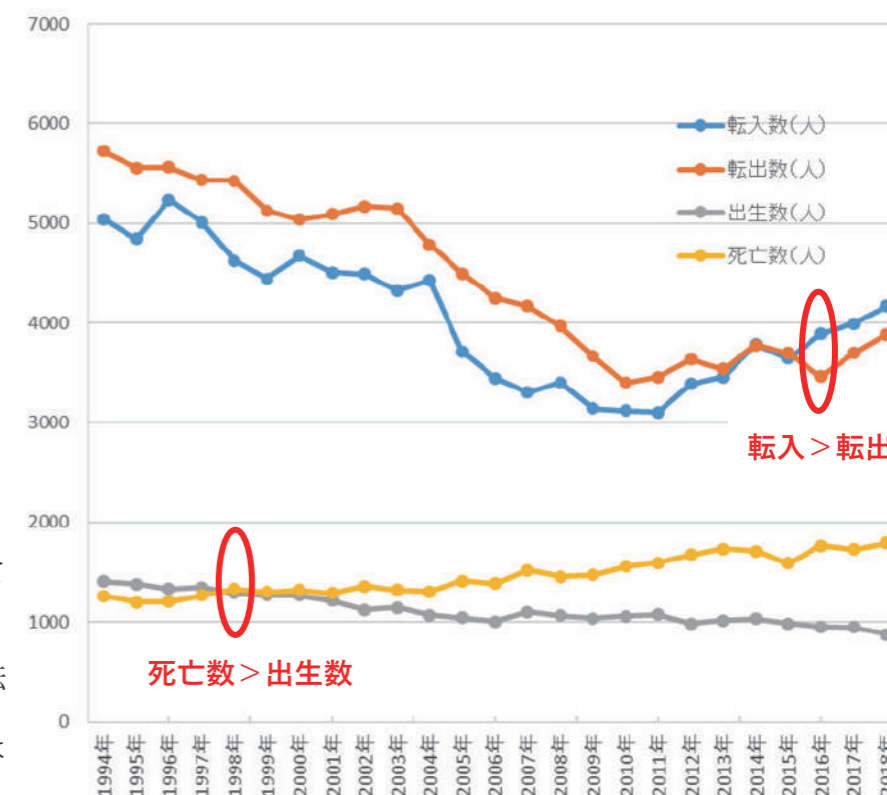
● 自然減少

- ・ 1998年以降、死亡数が出生数を上回る自然減が続いている。
- ・ 出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあるため、自然減少数は年々拡大している。（右図参照）

● 社会増減

- ・ 1998年以降、転出者数が転入者数を上回る「社会減」が続いていたが、2016年以降逆転し「社会増」となっている。（右図参照）
- ・ 大学等への進学や就職により、20歳～24歳の若い年齢層での転出者数が多い。（本編P7参照）
- ・ 一方で、社会人となり一定年数が経過した25歳～29歳の層では転入者数が上回っている。（本編P7参照）

八代市の自然動態・社会動態の推移

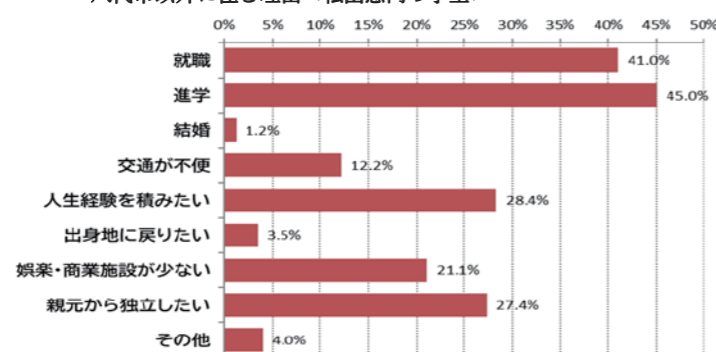
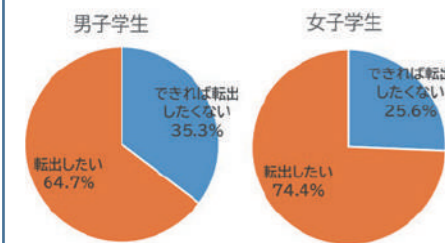


3. 若年層における人口動態分析

- ・ 将来の人口増減のカギを握る若年層の人口動態を分析するため、中九州短期大学、熊本高等専門学校八代キャンパス、本市内全7高等学校の生徒を対象にアンケートを実施。
- ・ 卒業後に八代市からの転出を考えている学生（男性49.3%、女性51.1%）のうち、「できれば八代市に住み続けたい」と考えている学生の割合男性で**35.3%**、女性で**25.6%**、「将来、八代市に戻りたい（住みたい）」と考えている学生の割合男性**46.4%**、女性で**28.7%**。

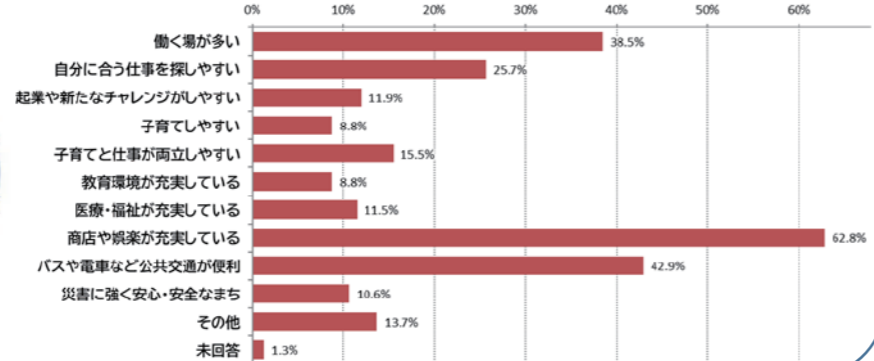
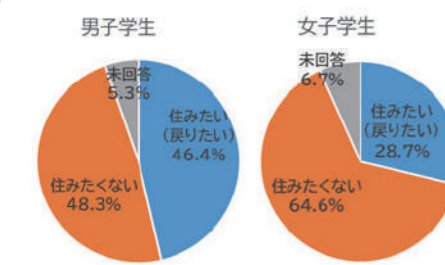
< 転出意向の学生 >

八代市以外に住む理由<転出意向の学生>



< 転出後の将来の居住地 >

八代市に住むために必要な環境・支援（住みたくないと感じた人）



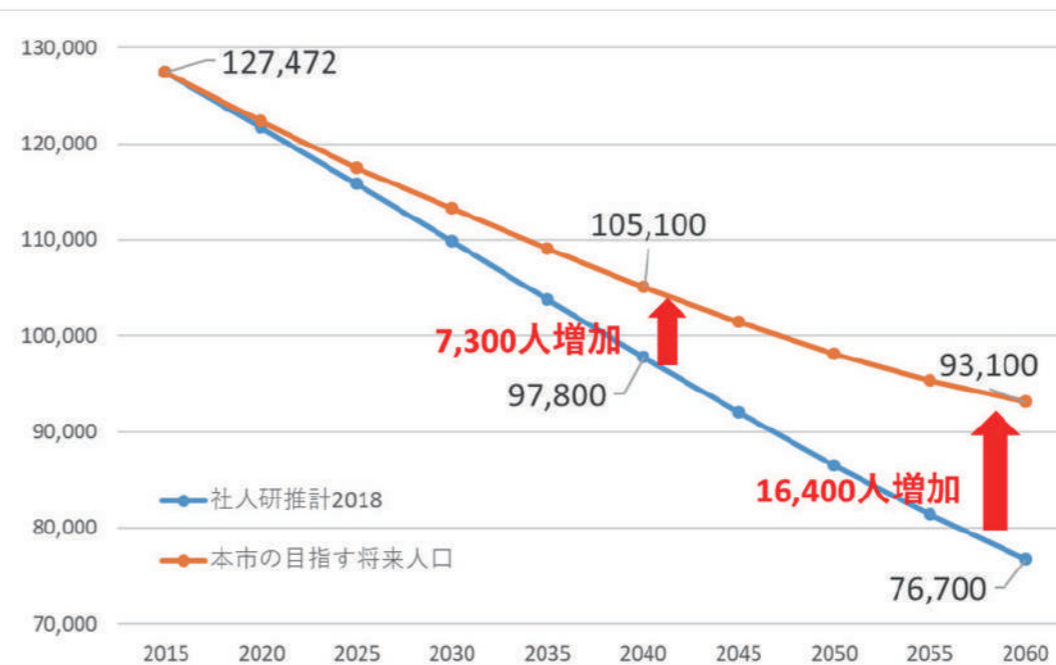
4. 人口の将来展望

○ 自然増減：合計特殊出生率

- 2020年：1.72（H25-H29人口動態統計特殊報告）
- 2030年：2.00（第1期人口ビジョン策定時の市民の希望出生率）
- 2040年：2.07（人口置換水準、以後一定）

○ 社会増減

- ・ 若者の定住希望が2030年までに実現
→ 20-24歳の転出者数が男性**35.3%**、女性**25.6%**減少
- ・ 若者のUターン希望が将来的に実現
→ 転出者の男性**46.4%**、女性**28.7%**が将来転入



	2015年	
年少人口	15,800	12.4%
生産年齢人口	71,100	55.8%
老年人口	40,600	31.8%
総人口	127,500	100%

	2040年	
年少人口	15,800	15.0%
生産年齢人口	52,500	50.0%
老年人口	36,700	35.0%
総人口	105,000	100%

	2060年	
年少人口	14,900	16.0%
生産年齢人口	49,800	53.5%
老年人口	28,400	30.5%
総人口	93,100	100%